

# 国際感染症学入門

科目責任者 桐 木 雅 史

学年・学期 1 学年・2 学期

## I. 前 文

グローバル化に伴う人や物の国際的な移動の増加は、感染症拡大リスクの増大にもつながっている。また、発展途上国では感染症の存在が貧困からの脱却の阻害要因となりSDGs（持続可能な開発目標）達成の妨げともなっていることから、国際社会が連携して感染症対策に取り組もうという流れにある。本講義ではまず「感染症」を概説した上で、外国から侵入する感染症の事例と対策、海外で罹るかもしれない感染症の例、国際社会における感染症の課題と取り組みなどについて紹介する。グローバル化がもたらした感染症の問題は、「輸入感染症」のような国内的問題のみならず、国際社会全体として取り組むべき大きな課題になっている現状を認識・理解してほしい。

## II. 担当教員

講 師 桐 木 雅 史 微生物学

## III. 一般学習目標

- ・ 感染症の理解を深める。
- ・ 海外からの感染症侵入リスクと国の対応を知る。
- ・ 感染症の問題を国際社会全体の課題として考察できる視点を持つ。

## IV. 学修の到達目標

- 1) 感染症の基礎と病原体の概要を知る。
- 2) 輸入感染症や世界的流行の事例を知る。
- 3) 海外で罹るかもしれない感染症を知る。
- 4) 日本及び海外の感染症対策の事例を知る。
- 5) 国際社会における感染症の課題と取り組みを理解する。

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。))

2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション

6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	7	8	水	5	現代のグローバリゼーションと感染症	桐 木 雅 史	1
2		15	水	5	輸入感染症の傾向と対策	桐 木 雅 史	1
3	8	19	水	5	アウトブレイク	桐 木 雅 史	1
4		26	水	5	節足動物と感染症	桐 木 雅 史	1
5	9	2	水	5	人獣共通感染症	桐 木 雅 史	1
6		9	水	5	NTDs (顧みられない熱帯病)	桐 木 雅 史	1
7		9	水	6	寄生虫症対策	桐 木 雅 史	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

以下のとおり成績評価する。（ ）内は評価の割合。

授業への取り組み状況（提出物を含む）(20%)，定期試験・レポート（80%）を総合的に判断して評価を行う。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

- 1) 教科書：指定しない。
- 2) 図 譜：講義内で参考となる文献，資料，ウェブサイトなどを紹介する。

VIII. 質問への対応方法

問い合わせ先：メールまたは対面で質問を受ける。対面を希望する場合は事前にアポイントを取ること。

微生物学講座集会室（総合教育研究棟8階）月～金曜日 8：30～17：00

メールアドレスは講義の際に伝える。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養，利他の精神，医師に求められる品格を身につけ，豊かな人間性を育み，他の医療者と協調して，多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び，情報・科学技術を活用して，生涯にわたって自ら問題を発見し，解決することができる	○
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と，その中核を担う意味を理解できる	
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し，課題解決に向けて行動することができる	◎
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み，医学・医療の進歩に貢献することができる	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートを評価後に返却する。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載

XII. コアカリ記号・番号

PS-01-03 個体の反応

PS-03-03 感染症

SO-05-02 グローバルヘルスの役割や医療体制 詳細はシラバス別冊に記載。